

2024年5月5日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 45 「祈りは感謝」

ダニエル9：17～19、マタイ7：7～12

問116なぜキリスト者には祈りが必要なのですか。

答 なぜなら、祈りは、神がわたしたちにお求めになる感謝の最も重要な部分だからです。また、神が御自分の恵みと聖霊とを与えようとなさるのは、心からのうめきをもって絶えずそれらをこの方に請い求め、それらに対してこの方に感謝する人々に対してだけ、だからです。

人間関係のトラブルは、大抵の場合、それはコミュニケーション不足に原因があると言っても過言ではありません。特にコロナ以降、その傾向が強くなったことを感じます。コロナ禍でわたしたちは人と関わる時間が極端に減りました。人は閉じこもり孤立していきました。相手の立場や考えを想像することができず、一方的に自分の意見だけを主張するようになる。それが意見の対立やすれ違いを生じさせていきます。これだけ SNS などのコミュニケーションのツールが発達した現代社会にあっても、人はますますコミュニケーションが取れず孤立しています。それは道具の問題ではなく、人間そのもの、人間の罪の問題なのです。

「神は御自分にかたどって人を創造された」（創世記1：27）とありますが、キリスト教の教理で言う「神のかたち」とは、神さまと向かい合い通じ合う人間を意味します。ところが人間は神さまとの約束を破り、この神のかたちを壊してしまいました。それゆえに人間は、神さまと通じ合えない存在になりました。それは言い換えれば、祈れなくなったということです。神さまとも、人間同士も通じ合えない。そこに罪の本質があると申し上げてよいでしょう。

宗教改革者カルヴァンは「祈りは神さまとの対話である」と言います。対話は、言うまでもなく相手がいって成り立つものです。相手のことを考えずに、ただ一方的に話すのであれば、それは対話ではありません。例えば、日本人が神社に行って願い事をするのは対話ではなく、独り言です。一方的にこちらの願い事だけを言っているだけです。相手がどういう神さまなのかも知らず、聞かれるかどうか分らず、ただ自分の願い事だけを一方的に呟く。多くの人は、それが祈りだと考えるかもしれません。けれども教会で言う祈りはそれとは根本的に違います。祈りは神さまとの対話なのです。そして、その対話を成り立たせてくださったのは他でもない神さまです。神さまがイエスさまを与えて、この冷え切った関係をもう一度繋いでくださいました。十字架とよみがえりの御業によって、わたしたちの罪を赦して、わたしたちが神さまと通じ合うことができるようにしてくださいました。だから祈ることができるのです。そこに信仰問答が言うところの「祈りが感謝の最も重要な部分である」ことの理由があります。

問117神に喜ばれ、この方に聞いていただけるような祈りには、何が求められますか。

答 第一に、御自身を御言葉においてわたしたちに啓示された唯一のまことの神に対してのみ、この方がわたしたちに求めるようにとお命じになったすべての事柄を、わたしたちが心から請い求める、ということ。第二に、わたしたちが自分の乏しさと悲惨さを深く悟り、この方の威厳の前にへりくだる、ということ。第三に、わたしたちがそれに値しないにもかかわらず、ただ主キリストのゆえに、この方がわたしたちの祈りを確かに聞き入れてくださるといふ、揺るがない確信を持つことです。それは、神が御言葉においてわたしたちに約束なさったとおりです。

ここでは、祈りが神さまとの対話になりますから、こちら側の一方通行ではなく、当然、対話の相手である神さまが何を求めておられるのかが問われます。三つのことが言われていることに注目しましょう。一つ目は「唯一のまことの神さまに対してのみ」とありますように、祈る対象である神さまだけを信頼し、心から神さまに請い求める、祈りの誠実さです。誰かに頼む時に、ダメだった時のことを考えて、同時に他の誰かに頼むことがあるならば、それは誠実ではありません。手当たり次第、数打てば当たるような感覚で頼むのは、頼む相手に失礼になります。唯一、まことの神さまにのみ信頼して祈ることが大切です。

二つ目は、神さまの御前にへりくだることです。罪のことを考えたら、わたしたちは胸を張って祈れるものではないことは明らかです。いかに自分が神さまの御前にふさわしくないか。本来ならば、その罪ゆえに退けられても仕方のないわたしたちなのです。徴税人が、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら「神さま、罪人のわたしを憐れんでください」と祈ったことを思い出します(ルカ18:13)。今日読みましたダニエルの祈りには「わたしたちが正しいからではなく、あなたの深い憐れみのゆえに、伏して嘆願の祈りをささげます」(ダニエル9:18)とありました。わたしたちが正しいから祈りが聞かれるわけではありません。正しくないにもかかわらず、神さまの憐れみのゆえに、ただイエスさまの執り成し、恵みのゆえにわたしたちの祈りは御前に届くものとなるのです。その恵みを賜る神さまの御前に、わたしたちはただひれ伏すしかありません。

そして三つ目が、「ただ主キリストのゆえに、この方がわたしたちの祈りを確かに聞き入れてくださるという揺るがない確信」です。イエスさまがこの罪を赦してくださったからこそ、わたしたちの祈りは御前に聞き届けられます。イエスさまが、わたしたちの拙い祈りを御前に執り成してくださるのです。わたしたちは「イエスさまを通して」「イエスさまのお名前によって」祈ります。イエスさまを通してわたしたちの祈りが聞き入れられる。この「揺るがない確信」とは、イエスさまによってしっかりした祈りの基礎、土台を持っている、その土台に支えられて祈ることができるということです。これは何よりの慰めではないでしょうか。底なしの沼のように言葉をくどくど述べる必要もない。聞かれるか聞かれないか不確かなところで祈っているのではない。イエスさまが十字とよみがえりによって、その祈りの土台を据えてくださった。だからこそ安心して祈れる。この祈りの恵みをまず心に留めましょう。

天の父よ。わたしたちのどんな拙い祈りをも御前に聞き届けられるという揺るがない確信を持って祈ることができる幸いを覚えます。そのためにイエスさまがご自身の命を持ってわたしたちを御前に執り成してくださいました。どうぞこの恵みの中で、あなたに信頼し祈り続けることができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。